

当世学生気質



若 者

尾 田 欣 也^{*}

First impressions on today's students

若手研究者としてなんでもいいから何か考えている事を書け、とのお題を頂きました。

私は素粒子論の研究をしている35歳^{*1}の助教です。研究者としては若手というよりはむしろ中核となつて働く年齢ですが、いわゆる団塊の世代が上につかえているロス・ジェネレーションともいわれる氷河期世代の一員として同年代の或いはさらに年上のポスト仲間達が大量に——というような陰鬱な話をするのはこの場に相応しくはないかもしれませんのでそういう題材ではなく、去年の夏から5年の任期で大阪大学に着任して大学教育に携わる事になりましたので、その印象などを御報告いたします。

当世学生気質、というようなよくある話を今日するとすれば枕としてはなにを置いても「ゆとり教育」というのがキーワードになるかと思います。ニコニコ動画^{*2}などの、誰でも動画にコメントをつけられるようなサイトにおいても、「ゆとり」というのは若者を揶揄する言葉として頻出しており、そういう本人の努力ではどうにもならない属性で人を馬鹿にするのは差別に他ならないのではないかな、と私は心を痛めておりましたが、それはそれとして実際の所ゆとり教育を受けた学生達というのはどういったものなのかな、という興味はやはり強くありました。寺脇研氏がTVに出演して旗振りしていたゆとり教育のカリキュラムで本格的に育ったのは、現在の大

学2年生の代からだと聞きます。ちょうど今年の春から工学部の1年生に力学を講義し、理学部物理学科の2年生に力学の演習を行う事になり、楽しみにしていました。若干の怖れとともに。

先に結論から申し上げますと、どんなカリキュラムの教育を受けようが人間は人間、そこに本質的な違いがあるわけありません。ただそれでもやはり何らかの傾向、といったようなものも感じられないではありません。もし読んだ事がある方がいらっしゃれば、藤原正彦「若き数学者のアメリカ」に出てくるアメリカン学生——基礎知識は全然ないが、昔の日本のような詰め込みの受験勉強を経ていないため学問に対して屈託がなく意外と素朴な向学心がある——というのに方向性としては近いかと思えます、というのもまた先入観にもとづく偏見かもしれませんが。ともかく知識、という以前に、例えばかなりの学生が微分や積分の概念そのものが把握できていなくて唖然とさせられたり等、いろいろと細かい問題がないではありませんが、それでも講義や演習の後、熱心に質問してくる者も多く、こちらもたくさんエネルギーを吸収できました。大学に入る前に急に勉強にくだびれているよりは、大学に入った後でちゃんと勉強する、というのは結果としては悪くないのかもしれません。

中身はともかく、見た目、これは違います。なにしろ生まれたときには既にバブルが崩壊していたわけですから、私も記憶しているようなバブル経済に突き進んでいった時代の日本の、これが流行とマスコミが決めれば全員が同じ格好をするような、あるいは金がかかっていればいるほどファッショナブルというような発展途上国的価値観からは自由である



^{*} Kin-ya ODA

1972年9月生
大阪大学大学院理学研究科博士後期課程
物理学専攻(2001年)
現在、大阪大学大学院理学研究科 物理学専攻 素粒子論研究室 助教
博士(理学) 素粒子論
TEL: 06-6850-5343
FAX: 06-6850-5379
E-mail: odakin@phys.sci.osaka-u.ac.jp

^{*1} この原稿が載るときには36歳。

^{*2} <http://nicovideo.jp>

ように見えます。一度頂点を極めて斜陽を経験しないと文化の厚みというのは出てこないのかもしれませんが。私が学部生の頃は^{*3}、いわゆる理科系の学生、特に物理学科の学生などというのはそういう競争からはハナから降りてしまって地味な、ありていにいったモテなさそうな見た目をしているものと決まっておりましたが、今の学生というのはみなさんもっと屈託なくそれぞれ個性的な格好をしていて大変好ましい。そしてそういう一見そこいらの兄ちゃんのような見た目の学生が頑張って質問し理解しようときて「おっ」と思わされた事が何度もありました。

性格的なものはもちろん一人一人違うわけですが、大ざっぱな傾向を自分が同じぐらいの年齢の頃と比較して、上でも書いた屈託のなさ、というのが挙げられるかもしれません。総じてたいへん明るく社交的で、ドイツでポストクをしているときに担当した学生達よりもむしろ積極的な印象を受けました（余談ですがドイツではポストクや博士課程の学生もうまく教育者の側に取り込んで給料を払えるような制度になっていて、教授達の負担という意味でも、ポストクや博士の教育経験という意味でもたいへん素晴らしい、是非日本でも取り入れるべきだと考えます）。あまり大学教員の権威というようなものにも萎縮せず物怖じしないように見えます。昔の学生運

動のような（知りませんが）権威への反発、というのではなく、もっと自然に気にしていない風です。私が子供の頃のような体罰もなく、大事にされて育ったのがよかったのかな、というようなよくある感想を私も持ちました。

上に挙げたものはいずれも、これから日本が成熟した先進国に進化して行く上で望ましい資質であるように思います。この先、（移民がいくらでも入ってきて搾取できるという特殊事情のある米国以外の）他の先進国に比べてたいへん貧弱な社会福祉の下で少子高齢化がますます進行してゆく未来において、集中力を欠いたやみくもな刻苦勉励ではなく、創意工夫によって富を獲得し暮らしをたててゆかねばならない我々ですが、私の子供達の先輩にあたる世代がこうやってきちんと育てているのを見るのは頼もしい感じがします。

本稿を書くという機会を頂いて、半年間いわゆるゆとり世代に接してみてもの第一感を並べてみましたが如何でしたでしょうか。このさき大量にのしかかってくる老人からの重圧や、氷河期世代からの「ゆとり」とのやっかみの声に惑わされずに、このまますくすくとその資質を伸ばしていってください。そして共に未来の日本を支えましょう（そしてうちの子供達をよろしく）というようなポジティブな感触を今のところ持っています。

^{*3} ちなみに1992年から1996年です。

